

第15号議案

文京区指定文化財の指定について

上記の議案を提出する。

平成28年2月4日

提 出 者 文京区教育委員会

教育長 南 新平

文京区指定文化財の指定について

「旧伊勢屋質店」は、文京区文化財指定基準（昭和54年4月2日文教委告示第1号 平成4年4月1日文教委告示第11号により改正）を十分に満たす文化財であるため、文京区文化財保護条例（平成4年3月31日条例第28号）第4条第1項の規定に基づき、文京区指定文化財に指定する。

1 旧伊勢屋質店 見世・土蔵・座敷棟 3棟 付 棟札（見世）1枚

(1) 種別

有形文化財（建造物）

(2) 名称

旧伊勢屋質店 見世・土蔵・座敷棟 付 棟札（見世） 1枚

(3) 指定理由

- ・明治期の東京の商家や庶民生活の様相をうかがうことができる貴重な文化財建造物である。
- ・多少の改造はあるものの建設当時の姿をよく残し、明治期の商家の店構えの全体像をうかがう上で貴重である。
- ・各棟の建築および移築の年代や大工等が判明し、数少なくなった明治期の東京の町家建築の指標となる貴重な遺構である。
- ・近代日本の女流作家として名高い樋口一葉がしばしば通った質屋として知られ、文学史上にも貴重である。
- ・震災、戦災等をくぐりぬけ、文豪が数多く住んだ本郷界隈のランドマーク的な存在ともなっており、歴史環境保全の面からも大切であると同時に地域住民からも親しまれている。

(4) 告示日

平成28年3月1日

(5) 所有者

学校法人跡見学園（文京区大塚一丁目5番9号）

(6) 所在地

文京区本郷五丁目9番4号

2 学術調査

伊郷 吉信（文京区教育委員会文化財調査員）

3 文京区文化財保護審議会委員

会長 谷川 章雄（早稲田大学人間科学学術院教授）

副会長 中村 ひろ子（元神奈川大学特任教授）

委員 岩淵 令治（学習院女子大学国際文化交流学部教授）

内田 青蔵（神奈川大学工学部教授）

佐藤 信（東京大学大学院教授）

副島 弘道（大正大学文学部教授）

藤井 英二郎（千葉大学大学院園芸学研究科教授）

4 文京区文化財保護審議会からの建議書（写）

別紙1 建議書（写）のとおり

本文化財について、文京区教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、区指定文化財に指定するに相応しいものであるか等を判断するため、その詳細について調査・審議するように文京区文化財保護審議会（以下「審議会」という。）に諮問した。

諮問を受けた審議会は、慎重に資料の文化的価値等について調査・審議した結果、文京区文化財指定基準を十分に満たす文化財であると認めた。

これに基づき、平成28年1月25日付、建議書により区指定文化財に指定するよう教育委員会あて建議したものである。

5 指定説明書

別紙2のとおり



平成 28 年 1 月 25 日

文京区教育委員会 殿

文京区文化財保護審議

会長 谷川 章



文京区指定文化財（有形文化財）の指定について（建議）

平成 27 年 7 月 23 日付で文京区教育委員会から調査・審議の諮問を受けた学校法人 跡見学園所有の旧伊勢屋質店について、慎重に文化財的価値を調査・審議した結果、「文京区文化財指定基準」を十分に満たし、指定するに相応しい貴重な有形文化財であることを認め、文京区教育委員会に建議いたします。

記

1 文京区指定文化財への指定名称（案）

旧伊勢屋質店 見世・土蔵・座敷棟

付 棟札（見世）1 枚

文京区指定有形文化財 指定説明書

- (1) 名称 旧伊勢屋質店 見世・土蔵・座敷棟
付 棟札(見世) 1枚
- (2) 種別 文京区指定有形文化財(建造物)
- (3) 員数 3棟
見世 1棟
土蔵 1棟
座敷棟 1棟
- (4) 所有者 学校法人跡見学園(文京区大塚一丁目5番9号)
- (5) 所在地 本郷五丁目9番4号
- (6) 規模 見世 木造2階建
土蔵 木造2階建、土蔵造り
座敷棟 木造平屋建
- (7) 面積・寸法 建築面積 110.10 m²
1階床面積 110.10 m²
2階床面積 60.72 m²
延べ床面積 170.82 m² ※柱芯での実測寸法をもとに算出
棟札 縦65.0 cm 横14.3 cm 厚0.9 cm
- (8) 建築年代 見世 明治40年(1907) 上棟
土蔵 明治20年(1887) 移築
座敷棟 明治23年(1890) 竣工

(9) 沿革

旧伊勢屋質店は、万延元年(1860)創業と伝わる質店である。明治26・27年(1893・94)ころに樋口一葉がたびたび通った質店として知られ、本郷のシンボルとして区民から親しまれている。創業当初の建物は現存していないが、現存する見世・土蔵・座敷棟の各棟は明治期における店構えの様相をよくあらわすものである。

土蔵は、文京ふるさと歴史館所蔵永瀬家(旧伊勢屋質店)文書に明治20年3月25日付の「売渡証(土蔵一棟)」および「新規御土蔵壺ヶ所御注文書」が残されており、南足立郡鹿浜村(足立区鹿浜)より移築したことがわかる。

座敷棟は、明治23年太田徳次郎の請負で施工がなされ、竣工したことが文京ふるさと歴史館所蔵永瀬家(旧伊勢屋質店)文書に残された「記(座敷新築請負ニ付)」などの史料から判明する。

見世には、かつて小屋裏に打たれていた棟札が現存する。表面に「上棟 明治四拾年四月吉辰廿一日建之 二代永瀬善四郎」、裏面に「大工 平野千代吉」と墨書されており、明治40年という上棟年、および施主・大工が判明する。

なお、これら3棟の建物は平成15年(2003)1月31日に国の登録有形文化

財(建造物)に登録された。翌16年には国庫補助金を得て、見世の傾倒の修理、構造補強、土蔵の外壁の塗り替えなどが行われた。

これらの建物は、代々創業者の永瀬家によって伝えられてきたが、昭和57年(1982)質店は廃業した。その後、建物と敷地は売買により、平成27年3月に学校法人跡見学園の所有となり、授業等の教育目的での利用のほか、土・日および毎年11月23日の一葉忌には一般公開されるなどの利活用がはかられている。

(10) 概要

旧伊勢屋質店は道路(菊坂)に南面して位置し、見世・土蔵を表に、座敷棟を奥に配す。表門は、敷地間口ほぼ中央に設けられ、門をくぐると正面に玄関入口が見え、玄関と廊下が見世と土蔵を繋ぎ、土蔵の背後の中庭および座敷棟に続く。

見世は敷地の南東角に建ち、道路(菊坂)に面する。瓦葺、切妻造りの木造2階建て、真壁造りの外壁に下見板を張った出桁造りである。1階正面には出格子があり、2階窓廻りには引分けの組格子がある。

見世の1階間取りは、奥行3尺の土間、四畳半敷きの部屋(見世1)、三畳敷きの部屋(見世2)、二畳敷きの部屋、四畳半の茶の間、台所、風呂場で構成される。土間および見世1・2が店舗部分を構成する。2階間取りは、七畳敷き・八畳敷きの2部屋の和室および玄関上の三畳敷きの部屋で構成される。八畳敷きの和室は床の間と床脇がつく。三畳敷きの部屋は女中部屋と伝わる。

見世の基礎は、房州石と大谷石の切石が積まれ、布基礎として設けられる。2階の小屋組は一般的な小屋組(和小屋)の構造である京呂組きやうろぐみで、桁行き2間、梁間4間である。

土蔵は敷地の北西角に建ち、道路(菊坂)に面する。瓦葺、切妻造りの木造2階建て、梁間2間、桁行き3間である。土蔵入口の扉は鉄板で包んだ観音開の扉である。入口鉄扉は後補である。窓は1、2階とも道路(菊坂)に面した壁に設けられる。かつては1、2階とも質草を並べる棚が造られていた。

土蔵内部の構造は、柱が約180mm角の太い柱であり、2階床は根太床の強固な造りとなっている。小屋組は京呂組で、ケヤキの二重梁をかけた堅固な構造である。

本土蔵は見世の北西側に隣接して建つ。一般的に町家の袖蔵は、間口の広い店の脇に商品を収納する目的で造られ、多くは妻側を正面にして建ち、店との位置関係から出入口は平入りである。袖蔵には、季節風の風向きを考慮し、火災から他の建物の延焼を食止める役割があり、敷地の北または西に建てるが多かった。旧伊勢屋質店の土蔵と見世との関係性は、町家の店とその脇の袖蔵との関係性を継承したものといえる。

座敷棟は敷地北側奥に建つ。瓦葺の平屋建てである。中庭に面した縁側には、防犯のため雨戸がつく。八畳敷きの座敷には床の間とその脇に押入があり、押

入には仏壇が納められていた。床の間の中庭側の壁には採光のための下地窓を設ける。

座敷棟の基礎は南と西側は玉石が据えられ、北と東側の側廻りに新しいコンクリートブロックが設けられており、新しく直されている。小屋組は京呂組である。

建物には便所が2カ所あり、土蔵と座敷棟の間に設けられた中庭に面して隣接する。一つは土蔵背後の廊下から入る和式便所で、一つは座敷脇の縁側から入る洋式便所である。洋式便所は後の改造で元は和式である。

中庭は北側が便所に面し、他の三方は廊下に面する。この中庭は採光や通風を取り入れるため設けられたと考えられる。

なお、風呂場は昭和28年(1953)以降の増築であるほか、照明器具、台所の水廻り、内壁の一部にスプレー塗料で施されたエイジング塗装などは近年の改造であり、このほかの改造部分も含め、今後の整備では復元にあたっての時代設定等を検討の上、撤去、改修等が必要となる可能性が高い。

本建物は、多少の改造はあるものの建設当時の姿をよく残し、明治期の商家の店構えの全体像をうかがう上で貴重である。また、出格子、出桁造り、土蔵造りの袖蔵などに江戸時代からの町家の造りが継承されている。さらに、各棟の建築および移築の年代や大工等が判明し、数少なくなった明治期の東京の町家建築の指標となる貴重な遺構である。また、近代日本の女流作家として名高い樋口一葉がしばしば通った質屋として知られ、文学史上にも貴重である。震災、戦災等をくぐりぬけた本建物は、文豪が数多く住んだ本郷界隈のランドマーク的な存在ともなっており、歴史環境保全の面からも大切であると同時に地域住民からも親しまれている。

以上から、本建物は明治期の東京の商家や庶民生活の様相をうかがうことができる貴重な文化財建造物である。

(11) 指定基準

「文京区文化財指定基準」 第一 区指定有形文化財 「一 建造物」のうち、「イ 歴史的又は学術的価値の高いもの」に該当する。

(12) 参考文献

伝統技法研究会編『旧伊勢屋質店調査報告書』(文京区教育委員会 文京ふるさと歴史館、2000年8月)

東京都教育庁地域教育支援部管理課編『東京都の近代和風建築 一東京都近代和風建築総合調査報告書一』(東京都教育委員会、2009年3月)

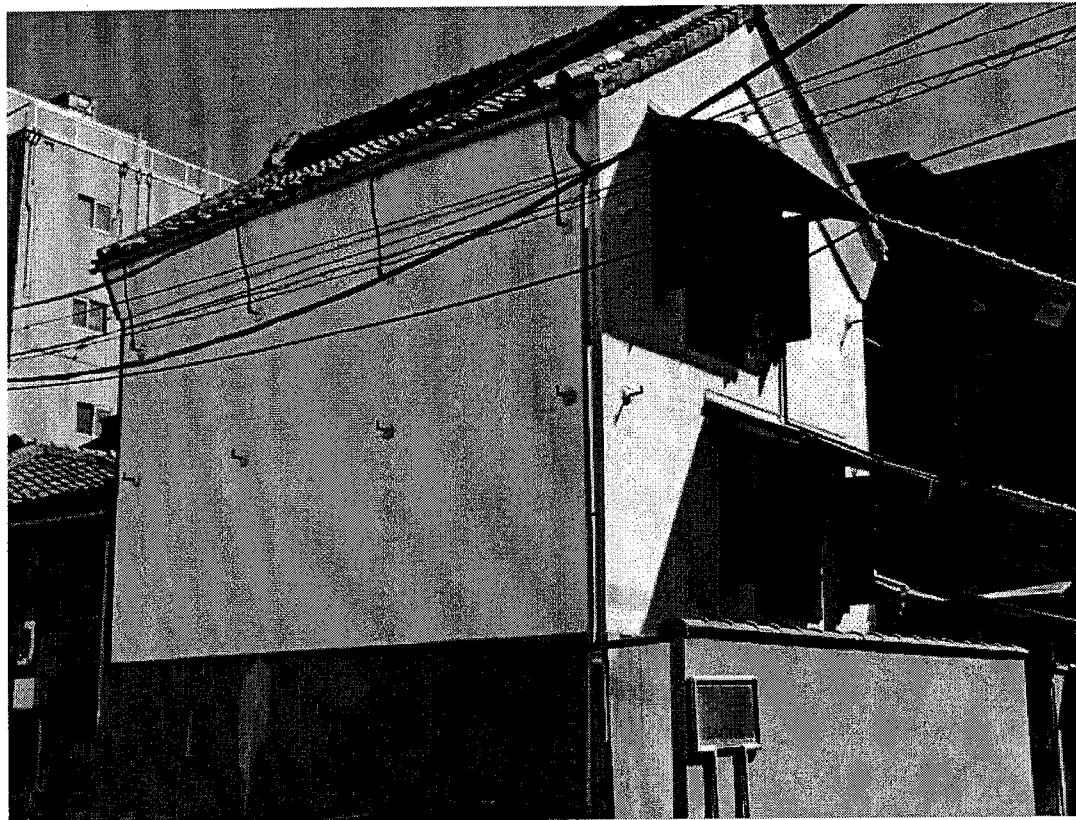
伊郷吉信「旧伊勢屋質店調査報告」(2015年11月)

(13) 参考史料

永瀬家(旧伊勢屋質店)文書 (文京ふるさと歴史館所蔵)



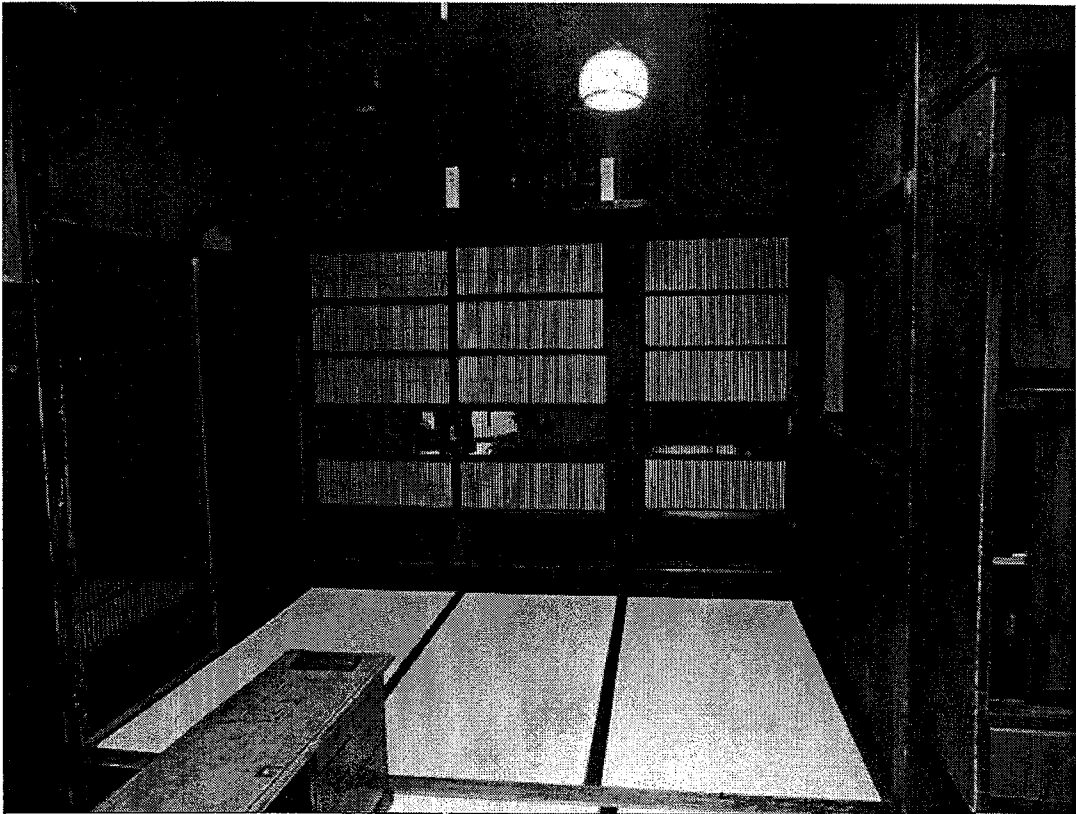
旧伊勢屋質店 道路（菊坂）よりの外観 右に見世、左に土蔵を見る



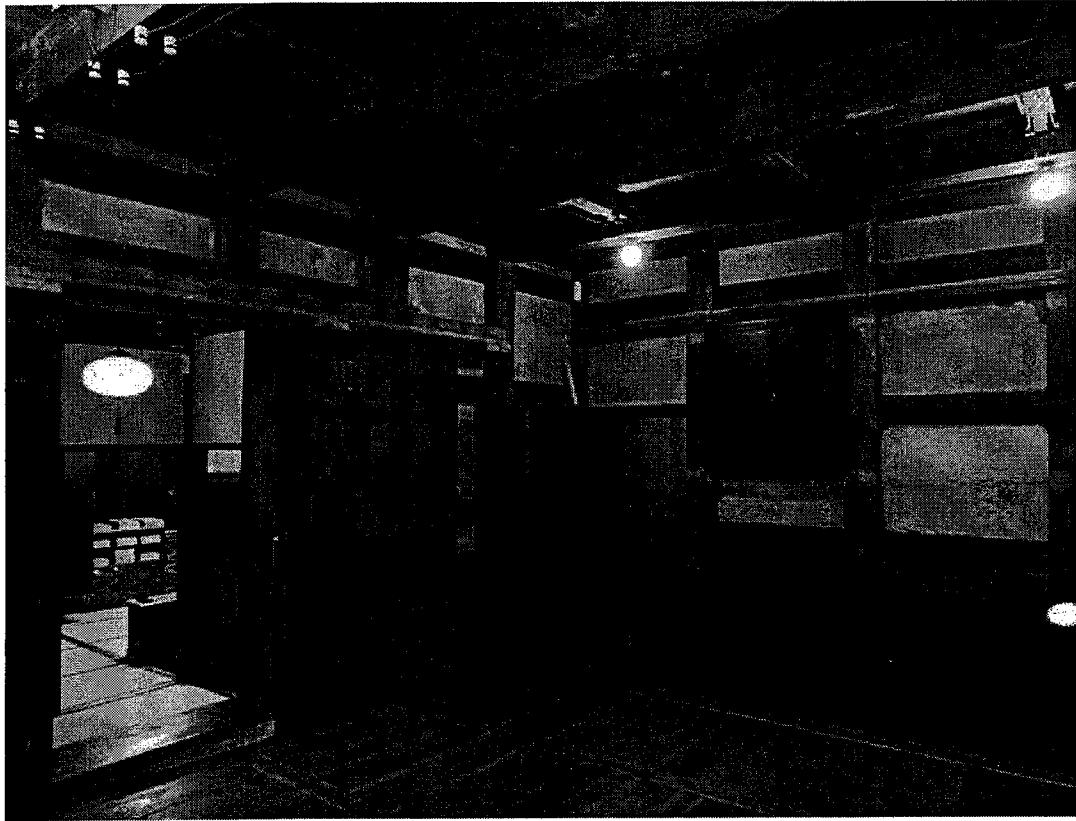
旧伊勢屋質店 道路（菊坂）西側からの外観



旧伊勢屋質店 裏庭東側より見世、座敷棟を見る



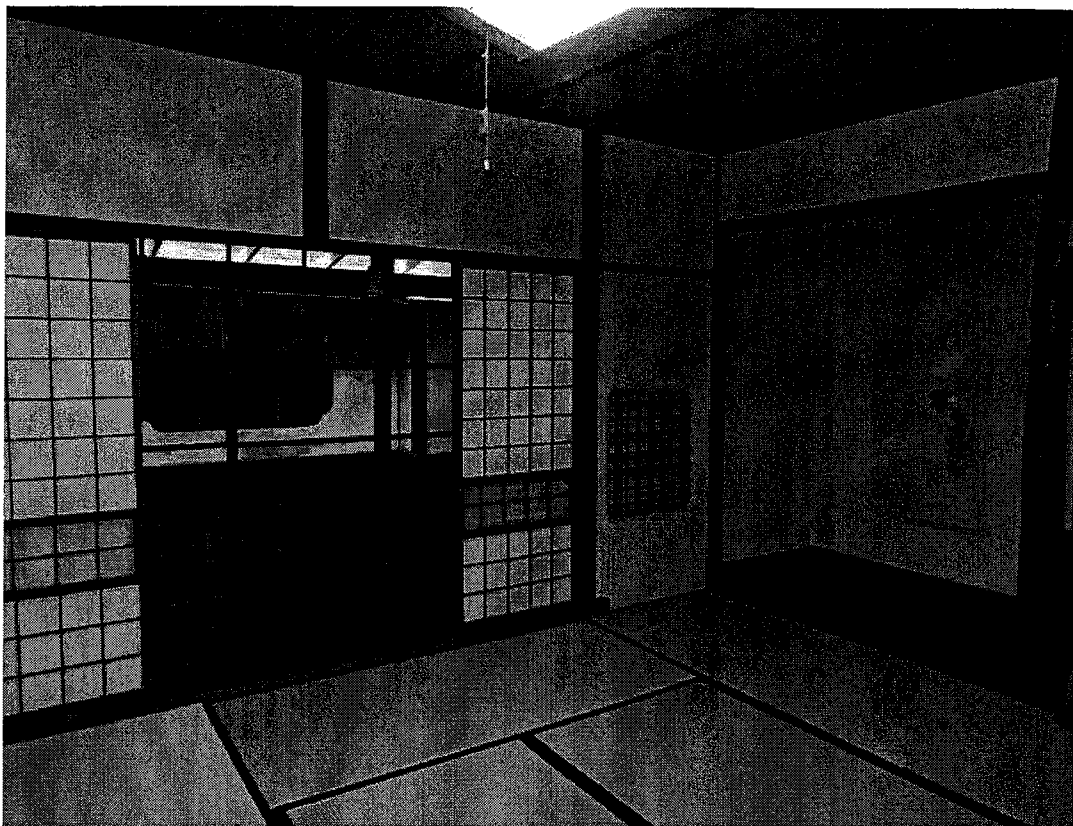
旧伊勢屋質店 見世 左手前が土間になりカウンターで接客をおこなった。正面に大坂障子が見える



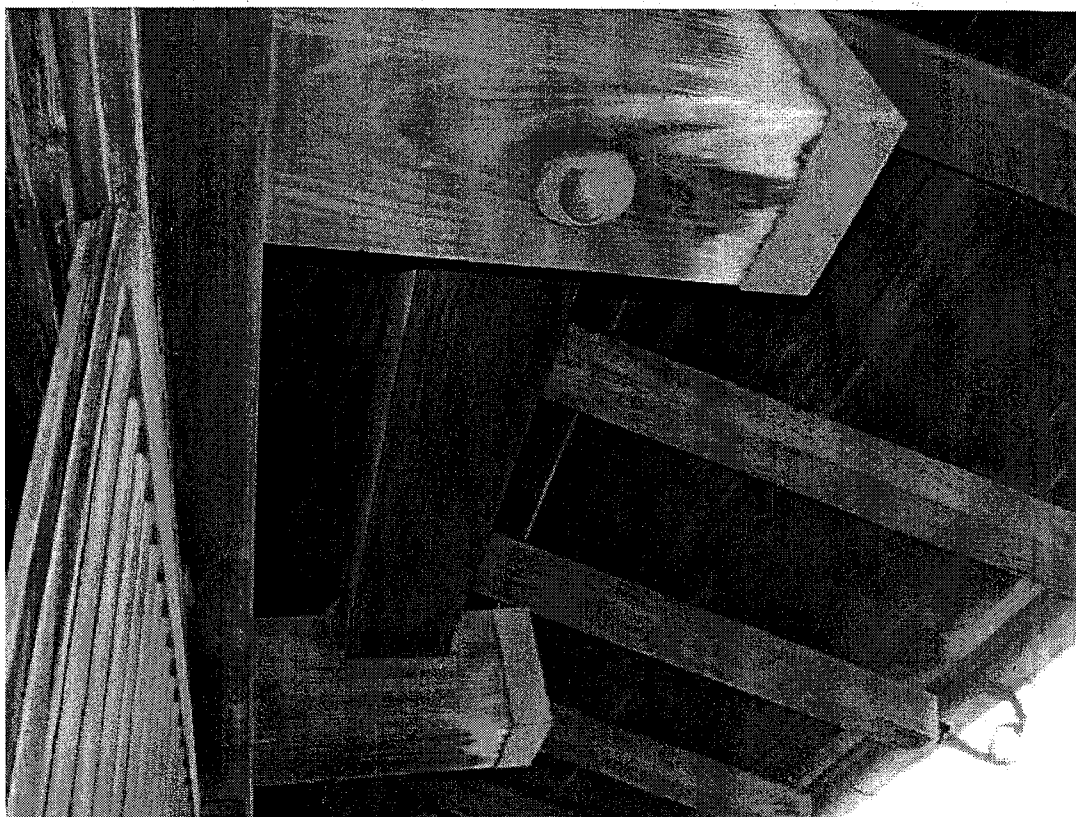
旧伊勢屋質店 土蔵1階内観 入口は鉄製の観音扉で内側に裏白戸と亀甲網の入った格子戸がつく



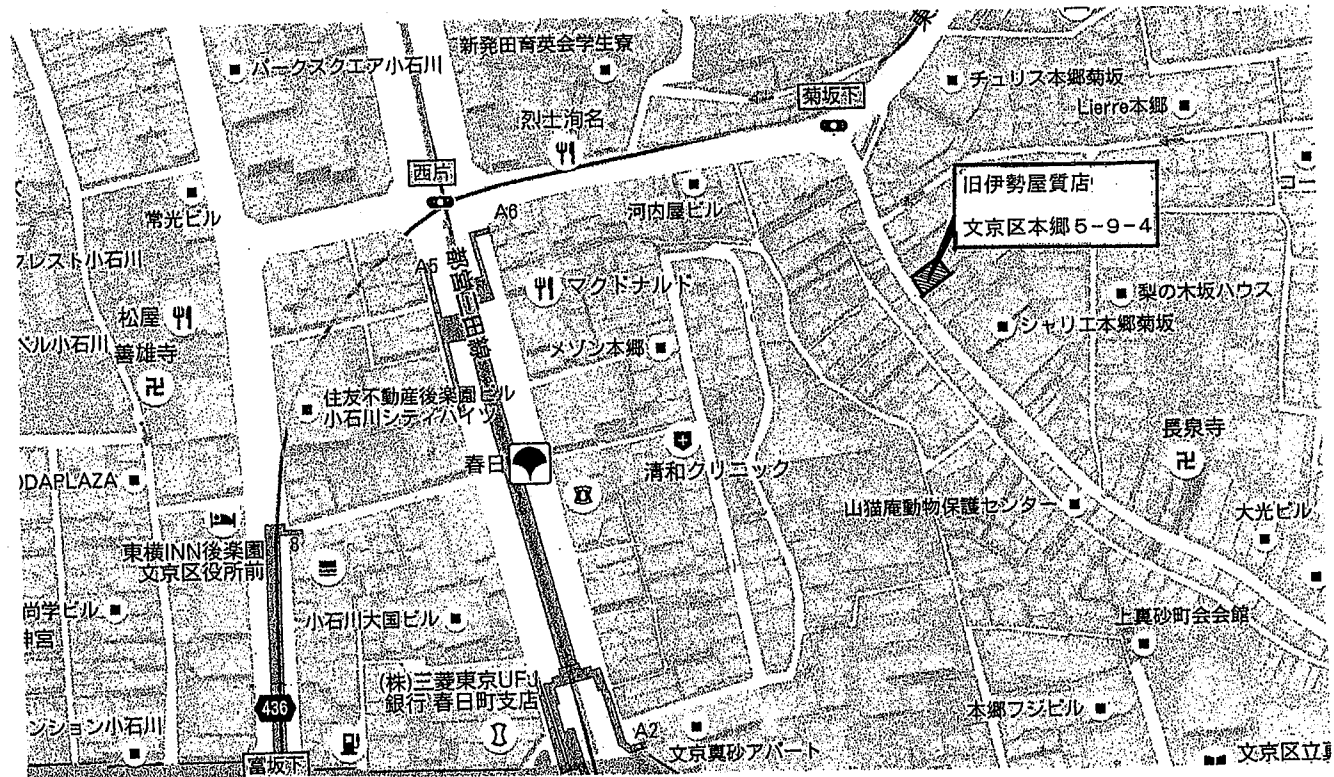
旧伊勢屋質店 土蔵2階内観 小屋の二重梁、梁間中央の中引梁はケヤキ材を使用している



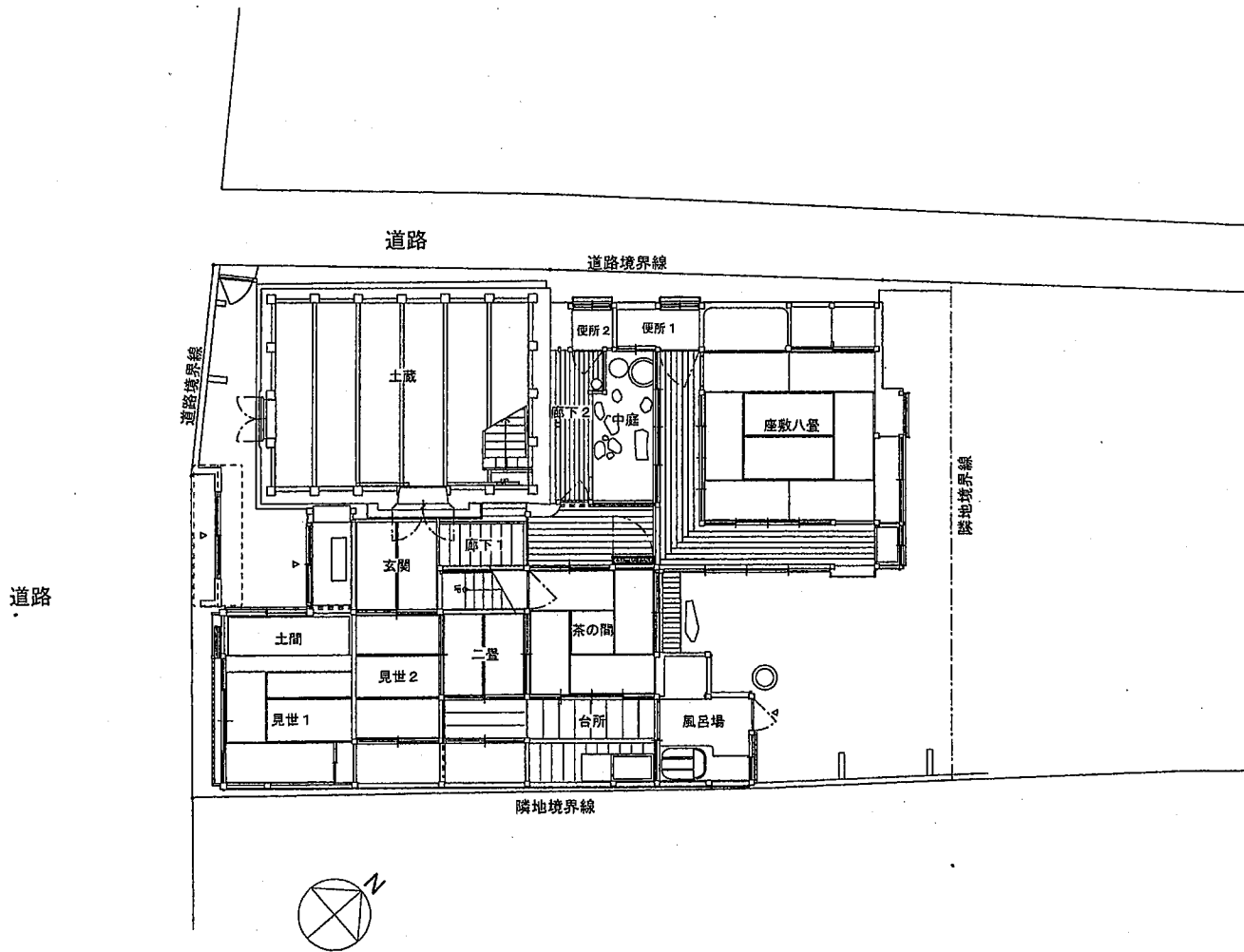
旧伊勢屋質店 座敷棟 座敷八畳より縁側、中庭を見る

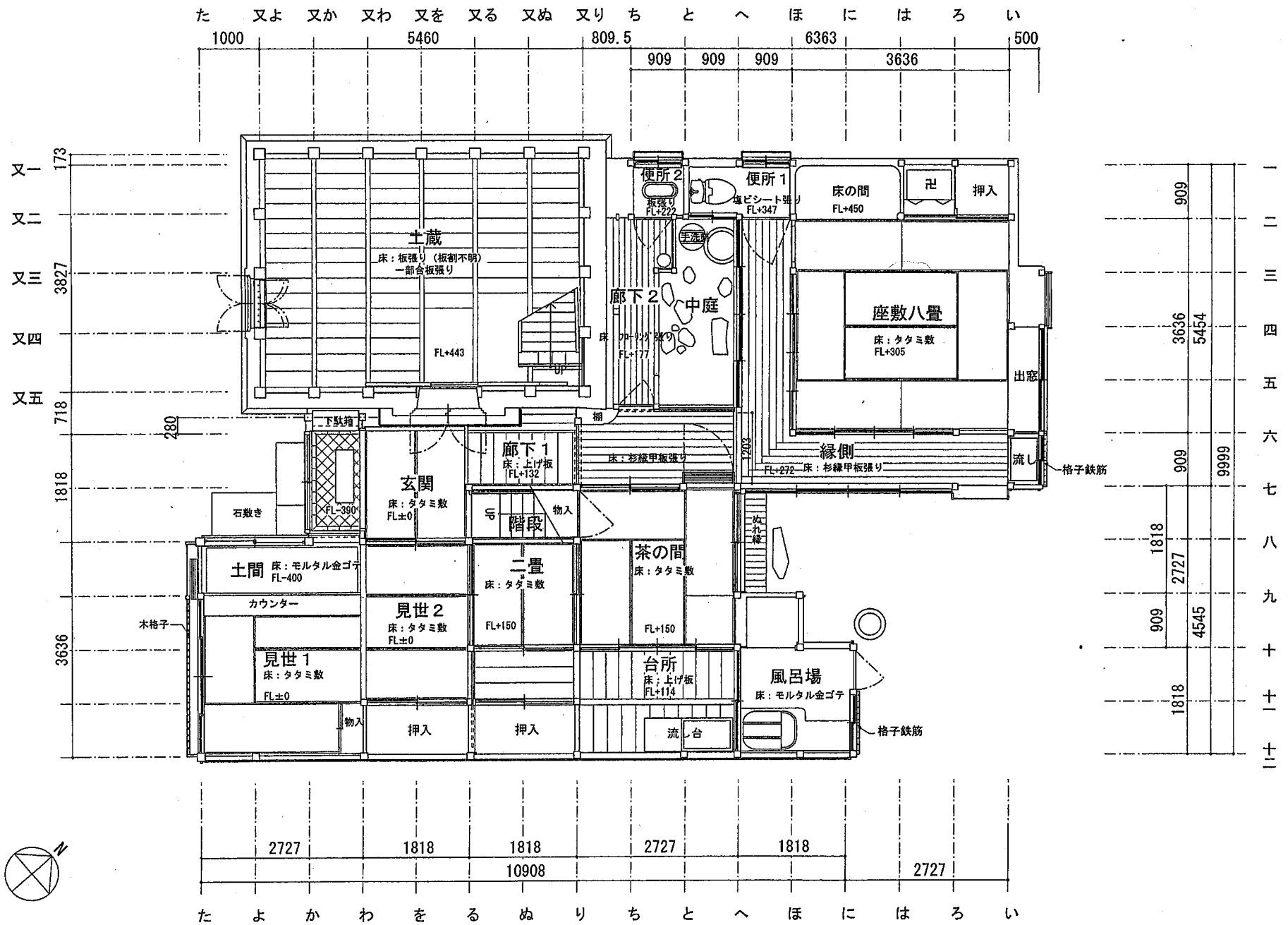


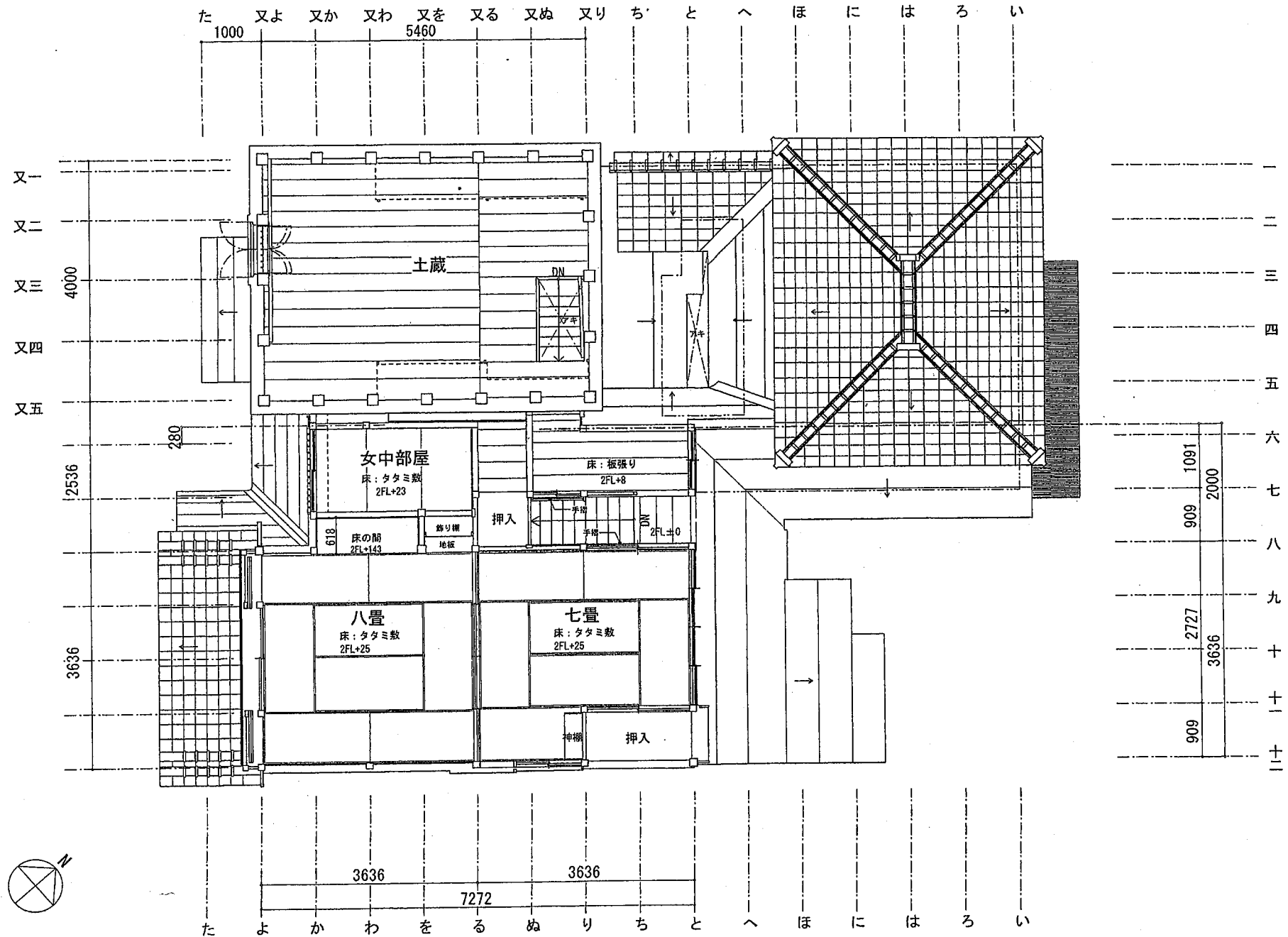
旧伊勢屋質店 見世 出桁造りの軒を見る



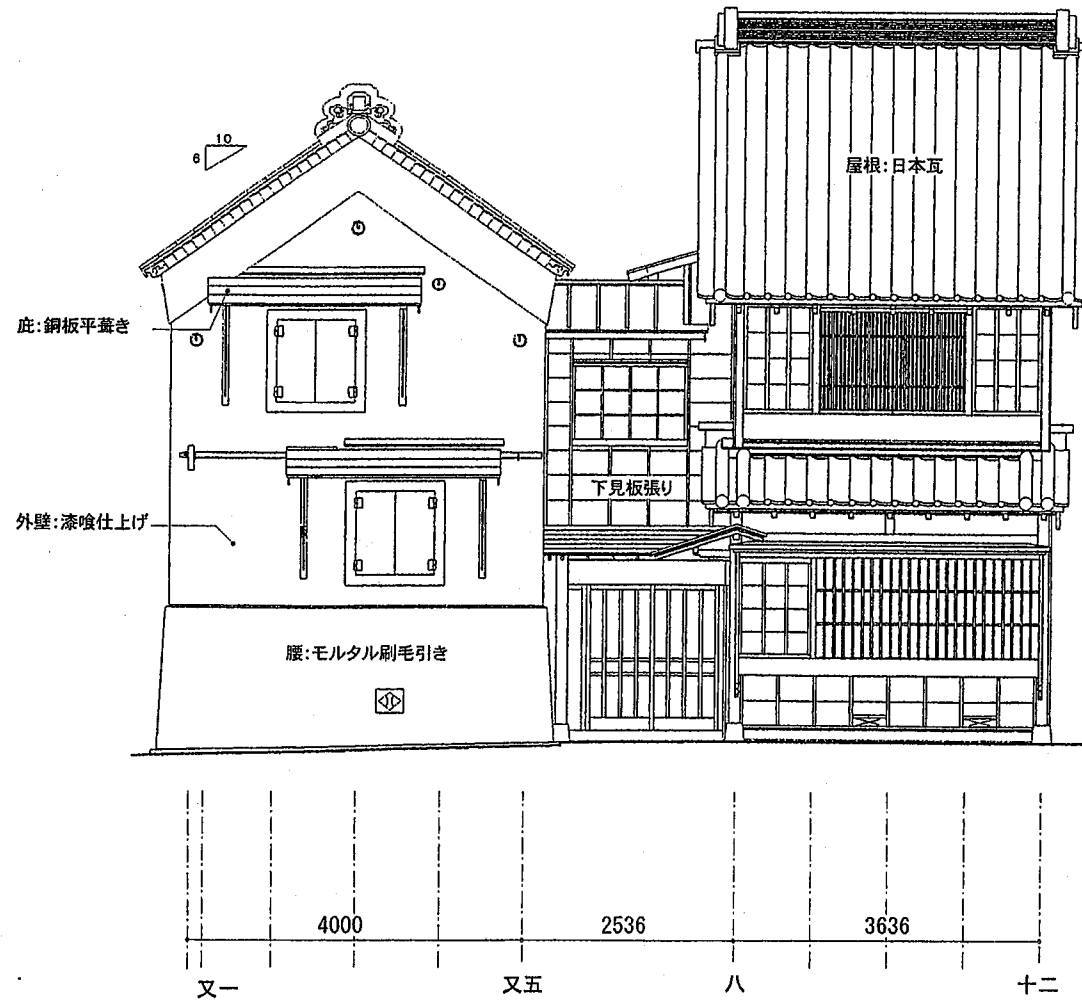
旧伊勢屋質店	位置図	
--------	-----	--

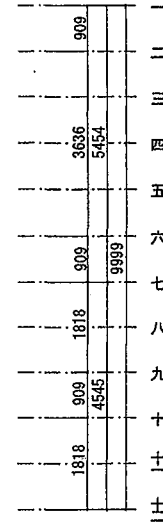
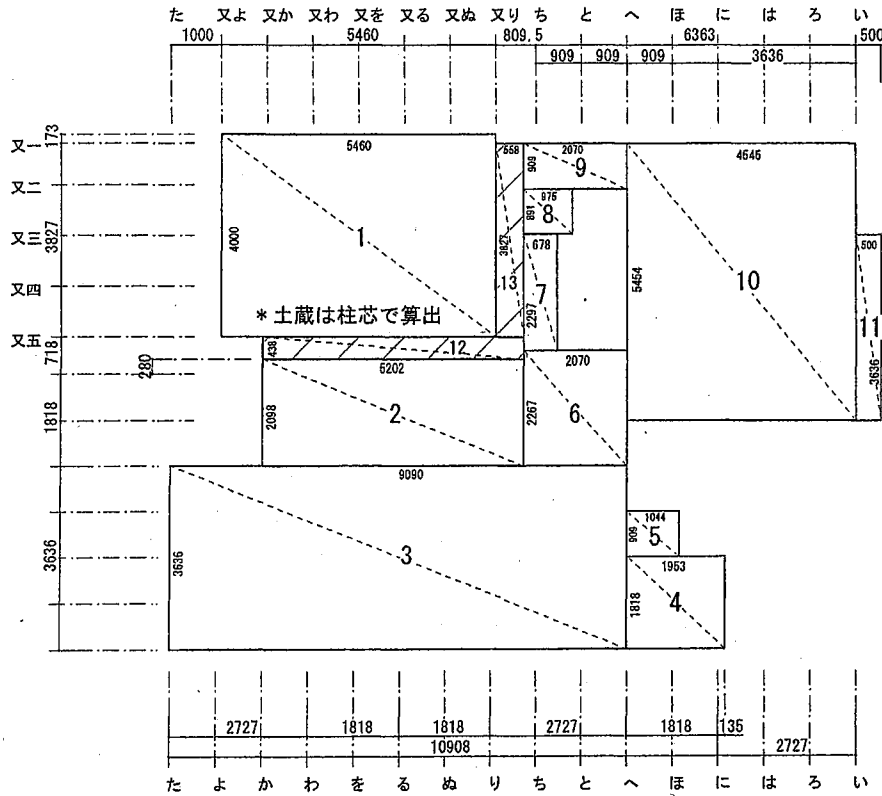




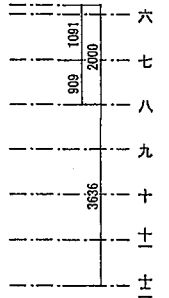
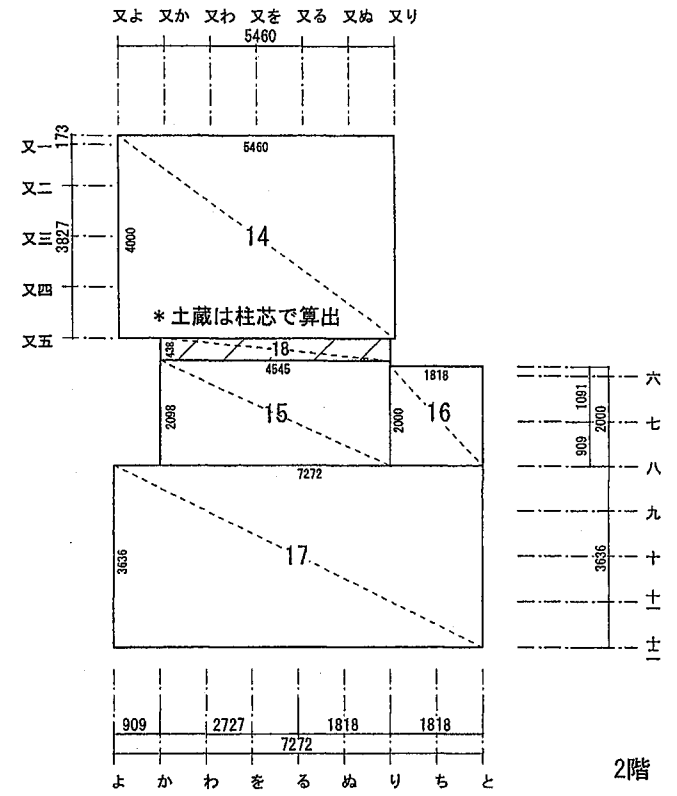


旧伊勢屋質店 二階平面図 S=1/60





1階

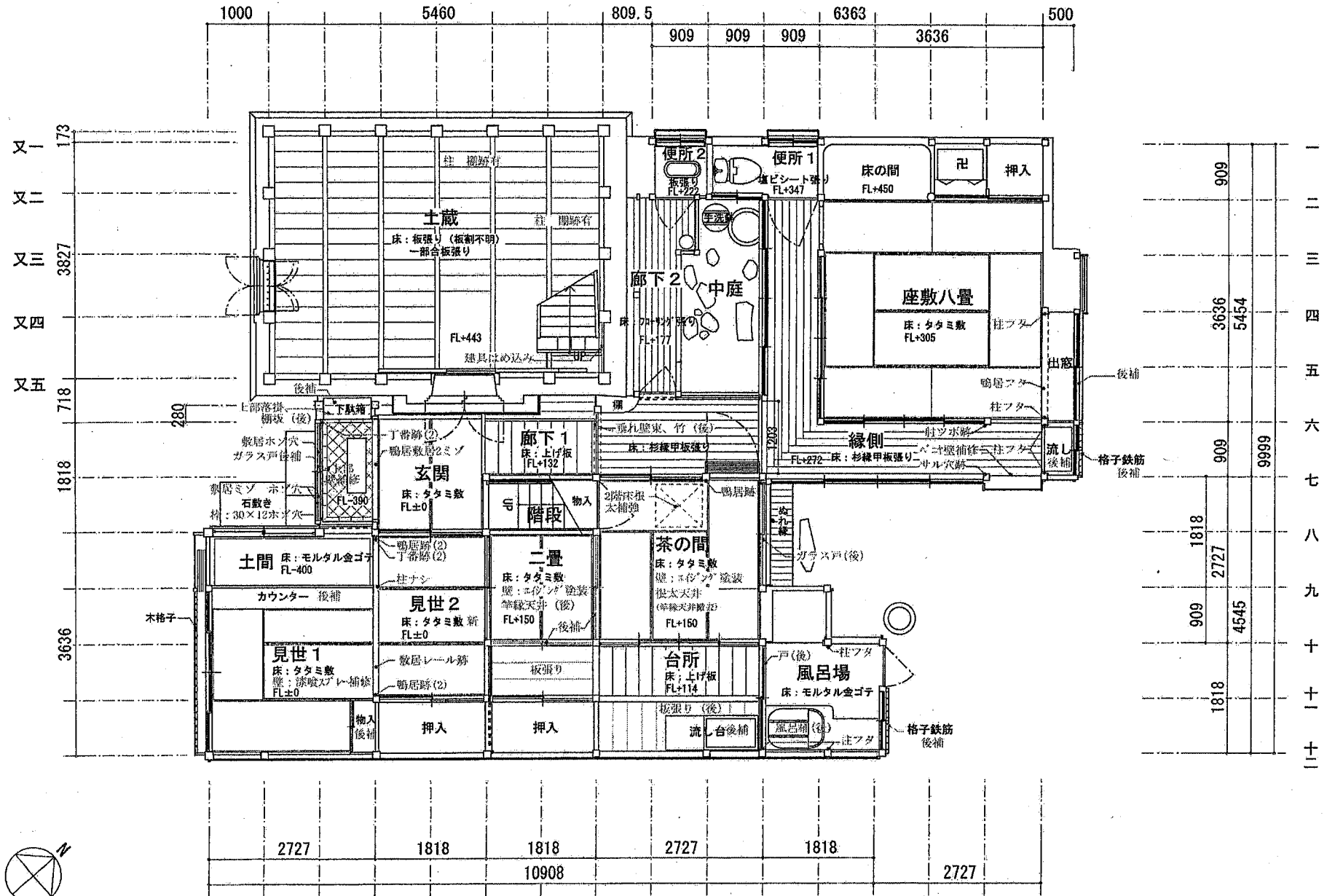


2階

番号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	5.460 × 4.000	21.84
2	5.202 × 2.098	10.91
3	9.090 × 3.636	33.05
4	1.953 × 1.818	3.55
5	1.044 × 0.909	0.95
6	2.070 × 2.267	4.69
7	0.678 × 2.297	1.56
8	0.975 × 0.890	0.87
9	1.818 × 0.909	1.65
10	4.545 × 5.454	24.79
11	0.500 × 3.636	1.82
12	5.202 × 0.438	2.28
13	0.558 × 3.827	2.14
1階計		110.10

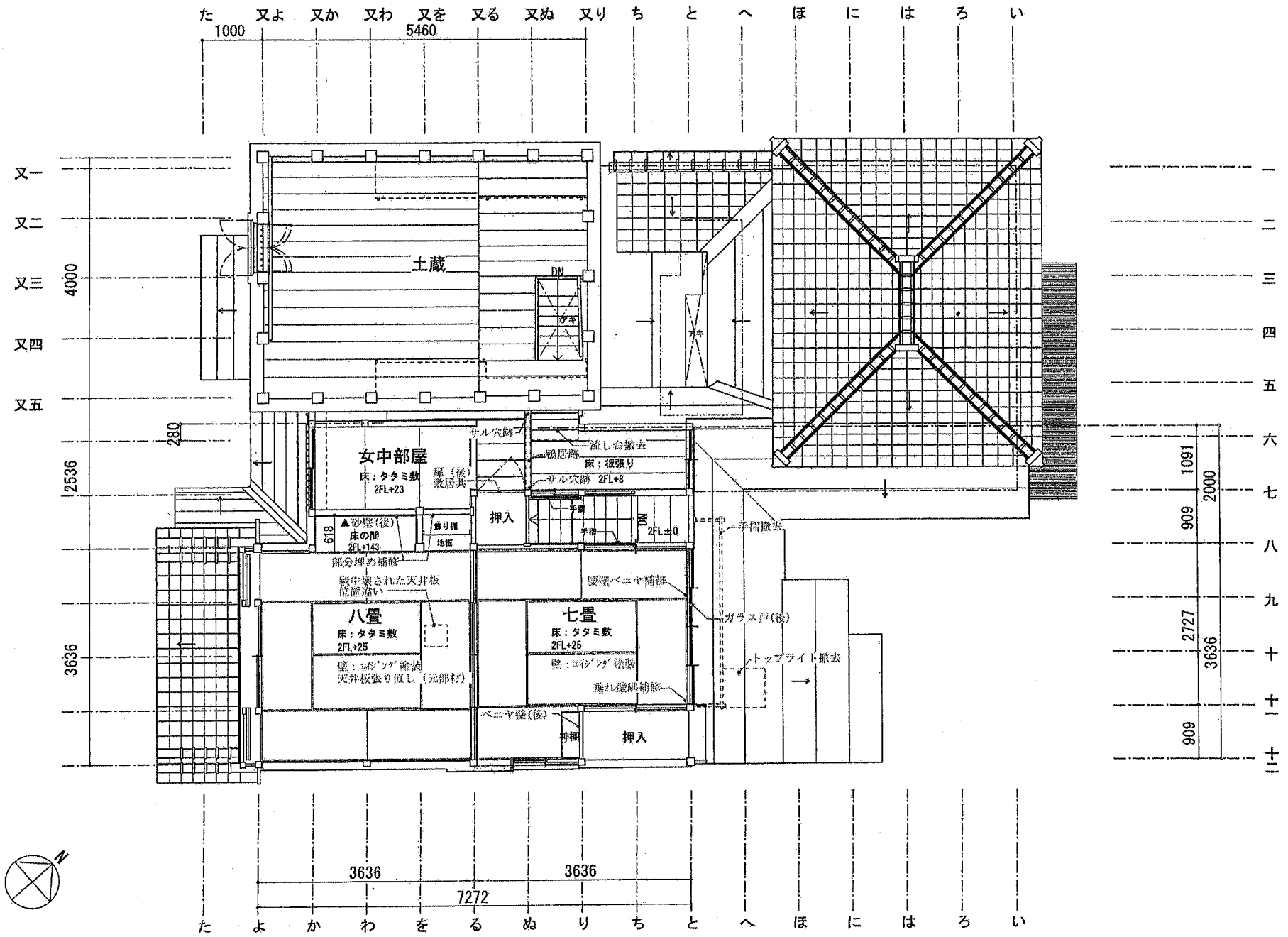
番号	計算式 (m)	面積 (㎡)
14	5.460 × 4.000	21.84
15	4.545 × 2.098	9.54
16	1.818 × 2.000	0.91
17	7.272 × 3.636	26.44
18	4.545 × 0.438	1.99
2階計		60.72
延べ床面積		170.82

た 又よ 又か 又わ 又を 又る 又ぬ 又り ち と へ ほ に は ろ い



た よ か わ を る ん り ち と へ ほ に は ろ い

(後):後補
(敷):箇所



(後):後補
(数):箇所